

## 第6学年3組 国語科学習指導案

指導者 深澤 陽子

- 1 単元名 作家の生き方、考え方を知り、学んだことを発信しよう (宮沢賢治)
- 2 目標
  - 宮沢賢治と作品の関わりに关心をもち、進んで作品を読み取り、賢治という人やその作品についての自分の考えを適切に表現しようとする。 (国語への关心・意欲・態度)
  - 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べながら考えをまとめることができる。 (話すこと・聞くこと エ)
  - 必要な事柄や伝えたいことを整理し、文章全体の構成の効果を考えながらニュース原稿を書くことができる。 (書くこと エ)
  - 賢治の作品や伝記を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり、深めたりすることができる。 (読むこと オ)
  - 賢治の優れた表現や描写に触れ、語感に対する关心をもつことができる。 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)
- 3 学習にあたって
  - (1) 単元について
 

本単元は、学習指導要領「C読むこと」の内容オ「本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること」、および「A話すこと・聞くこと」の内容エ「話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること」を受けて設定した。

宮沢賢治は「まことの幸せ」を求めて献身的に農民として生きた彼自身の深い考え方や生き方から、この時期の児童が自分の考え方や生き方について多くのことを学ぶことができる絶好の学習教材である。それに加えて彼の残した多くの作品にも、賢治の生き方や考え方方が十分に表現されているものが多い。5年生では「注文の多い料理店」を学習し、作品を通して賢治の世界を知った経験をもっている。

そこで、本単元では、まず教科書教材である伝記「宮沢賢治」を学習し、賢治の生涯から彼の理想や生き方を読み取る学習を行い、児童一人一人が、伝記から自分なりの「賢治像」をつかむ。そして十分に興味関心を高めてから、「注文の多い料理店」以外の賢治の作品を読み広げ、作家と作品をよりかかわらせて読みを深めるという単元構成を考えた。さらに、習得したことを活用し、より確かな自分の思考とするため、つかんだ賢治の生き方・考え方とそれに対する自分の考えを友だちとの交流を通してさらに広げ、まとめ、それを「特集ニュース！私が出会った宮沢賢治」というニュース番組に編成して発信するという学習の流れを設定した。

単に伝記を読んで賢治という人物像をつかむだけでなく、本校の国語単元改善プラン1 JUM P A (※後に記述)に挙げられているように伝記や作品を読み取って習得したことを、互いの考え方を伝え合い、自らの考え方や集団の考え方を発展できるような活用場面(本単元ではニュース番組発信)を意図的に設定した単元構成にすることにより、「読みの楽しさ」とともに「互いの考え方を伝え合う楽しさ」も味わわせながら、伝え合う力を身につけた児童の育成に迫りたい。
  - (2) 児童の実態について (在籍32名)
    - ・アンケートによる意識調査

平成21年9月1日実施

質問	回答数	内容
宮沢賢治の作品を読んだことがありますか。	ある 27名 ない 5名	<どんな作品か> ・注文の多い料理店(26名)・銀河鉄道の夜(2名)・セロひきのゴーシュ(2名)
宮沢賢治という人はどういうイメージですか。	・賢い人(7名)・真面目な人(3名)・不思議な人(3名) ・暗い人(3名)・複雑な人(2名)・謎めいている人	
宮沢賢治について知っていることがありますか。	ある 6名 ない 26名	<知っていること> ・たくさんの中を書いた・岩手で生まれた ・教師をしていた・貧乏だった
読書は好きですか。	好き 14名 普通 15名	<理由> ・いろんな事を知ることができる。・想像が広がる。・楽しい時間が過ごせる。
どんなジャンルの本を読みますか	・小説(27名)・歴史(14名)・推理(11名) ・図鑑・事典(4名)・伝記(2名)・科学(2名)	

・アンケートによる実態調査 (県国語学力改善プラン問題より)

内容	よくできる	概ねできる
話し手の意図をとらえスピーチの要旨をまとめることができる。	18名	11名
自分の意見と比べながら、話し手に的確な質問を考えることができる。	12名	17名
相手に伝えたい事柄を整理して構成を考えながら話すことができる。	16名	14名
相手に分かりやすい効果的な話し方を理解している。	21名	10名
自分の考えを積極的にわかりやすく発表することができる。	5名	17名

児童の実態を分析すると、5年生の時に「注文の多い料理店」を学習したので、賢治の名前は知っているものの、それ以外の賢治の作品には読書が及んでいないし、賢治自身についても余り知られていないことが分かる。「注文の多い料理店」の内容から、「謎めいていたり不思議な人」というイメージをもっている児童もいる。教科書教材・伝記「宮沢賢治」を丁寧に読み取らせ、賢治の生き方や考え方をしっかりとつかませることで、もともと読書に関心の高い児童に、「賢治作品」への興味をかき立てたい。読書に対する興味が低い児童に対しては、短い作品や絵本になっているものから紹介し、抵抗感をやわらげて賢治作品へ誘いたい。

「話すこと・聞くこと」の能力に対する実態では、相手に分かりやすい話し方をほとんどの児童が理解しており、構成を考えたスピーチ原稿も書くことができる。4年生から学習してきた基礎力が習得できていると言える。ただそれをわかりやすく発表するとなると、恥ずかしさや自信のなさから小さな声で早口になってしまふ児童が多い。国語科では「聞き名人」を育てる指導を取り組み、誰もが安心して話せる雰囲気を作ると共に、国語科以外の時間でもクラスのみんなの意見をいつも温かく受け入れる学級作りに努力していきたい。どう話したらよいか迷っている児童には、話し方のパターンを示してイメージをつかませたり、ノートに自分の話すことをまとめる時間を与えること、友達との交流で発表できる友達に話し方のアイデアをもらうなどの策を講じて、話すことに抵抗を感じない、みんなと意見を伝え合うことが楽しいと感じられるような児童をぜひ増やしたい。

#### (3) 指導観について

指導に当たっては、第1次から第5次まで、22時間にわたる大単元になるため「ニュース番組を作る」という学習の目的意識と「友達に伝える」という相手意識が薄れないよう「宮沢賢治学習コーナー」に「学習進行表」を作成し、**国語単元改善プラン1 JUMP E**（※後に記述）を実行するようにする。

また、第3次に賢治の作品を読み取る「**様式読み**」の学習を経て「自分なりに賢治の作品を読み取れた」ことをメタ認知させることにより「もっと他の賢治作品も読んでみたい。」「他の作品ではどうなのだろうか。」という広げ読みに結びつけたい。そして先述の「賢治学習コーナー」に、図書館の協力を得て賢治の作品がいつでも手にとって読めるよう本をそろえておいたり、「賢治作品スタンプラリーカード」を作成したりして読書意欲を喚起したい。

第5次でのニュース番組を作る際には、第3次でつかんだ賢治の作品から読み取ったメッセージ、第2次の伝記の読み取りからとらえた賢治の生き方や考え方、この双方に指導要領「C読むこと」の5学年及び6学年の言語活動例「伝記を読んで自分の生き方を考えること」を関連させて、単に作品や作家に対する感想に留まらず、自分の現在の生き方、そしてこれから生き方を考えたメッセージ性の高い自分なりの「まとめ」をニュースとして伝えることができるよう、丁寧に番組の構成作りやニュース原稿作りをすすめていくようとする。原稿作りの過程には、内容に深まりや広がりを持たせるためにも友達との「交流タイム」を設けたり、学習ボランティアの方によるプレ試聴会を実施したりして「アドバイスカード」を用いて意見交換し合い検討を重ねながら、他者と係わって共同して一つの番組を作り上げていくことの意義と楽しさを十分に味わせつつ、ねらいとする「読むこと」の能力を高めていきたい。

#### (4) 自ら考えをもち、伝え合う力を身につけた児童の育成のために

「自分なりの考えをもつ」ために、まず、読み取りにおいてもニュース原稿作りにおいても「思考」する時間を十分に確保する。そして一人一人考えを必ずノートに書かせる。それからノートに記した自分の考えを数人のグループ、もしくは全体に投げかけて発表し合うことで、自分と同じ考えに出会って自分の考えに自信がもてたり、違う考えに接して違った尺度から自分の考えを見つめ直したり自分の考えを深め広げる事ができると考える。ここに**改善プラン1 JUMP D**の「**ま・な・びノート**」作りの工夫を盛り込み、自分の意見が広がっていく様子を図を用いてどんどん書き込ませたり、友達の意見との比較を色別でまとめさせたりすることで「自らの考え」というものをしっかりとまとめる力と**メタ認知能力**の育成を目指したい。

また「伝え合う」とは「伝える」だけの一方通行ではなく「それを受信（聞く）する側」の育成も必要となる。本単元では特に「ニュース番組」を作り相手に伝えることが学習の目的になるので、「伝え合う」を意識して、受信者側にも番組を発信する側の意図をつかんで聞くことができるよう「番組視聴者ご意見カード」でとらえた考えをまとめたり、「聞き名人」のポイントをしっかりと教室に掲示したりして、友達の情報を受け入れられる耳を鍛えていきたい。

人前で発言することを苦手に思う児童が多い本学級である。でも「伝え合う」とは音声だけの発表だけではないと考える。ノートを交換して読み合い、互いに意見を書き合う学習も「伝え合い」だととらえる。一人一人の児童の実態に応じた「伝え合い」活動を今回のニュース番組作りの過程に取り入れることで、どの児童にも友達と伝え合うことができたという自信と友達への理解を深めたり、自分を振り返ったりすることのできる力を持つてやりたい。

## 4 学習計画および評価計画（22時間扱い）

第1次 「今西裕行さんについての番組」を見て、学習のゴールをイメージし、学習計画を立てる。  
・学習課題を設定し、学習計画表を作成して学習の見通しをもつ・・・1時間

宮沢賢治の世界を学習し「特集ニュース！私が出会った宮沢賢治」というニュース番組を作って発信しよう！

・(意味調べ・音読練習) · (家庭学習)

- 第2次 宮沢賢治の生涯を読み取り、その理想や生き方について考える。  
 • 伝記「宮沢賢治」を読み、その生き方や考え方をとらえる。· · · · · 4時間  
 • 読み取ったことをまとめ、自分の生き方について考える。· · · · · 1時間
- 第3次 宮沢賢治の作品を読み取り、作者からのメッセージを受け取る。  
 • 作品「雪渡り」を読み作品の主題をとらえ、作者の考えをつかむ。· · 5時間
- 第4次 宮沢賢治について他の作品を読む。· 2時間  
 • 宮沢賢治の作品からいくつか選んで読み感想をまとめる。
- 第5次 「特集ニュース！私が出会った宮沢賢治」というニュース番組を作り、公開する。  
 · · · · · 9時間

テ  
マ  
読  
書

時数 次 時	学習内容	評 値 規 準				
		関・意・態	話す・聞く	書く	読む	伝統的な言語文化
	1 番組作りや発表についての内容を話し合い、学習の見通しをもつ。 (行動観察・学習表)	番組作りに関心をもち、意欲的に学習の見通しをつかもうとしている。				
	2 グループを組み、番組全体の構成や内容を考える。 (行動観察・発表)	自分たちのニュースの内容を積極的に考え話し合いに取り組んでいる。		分かりやすい番組になるように、番組の構成の効果を考えている。 (構成表)		
	3 グループの考えた構成に従ってそれぞれのニュース原稿を作成する。			自分の伝えたいことが相手に分かりやすく伝わることを意識しながら原稿を書いている。 (ニュース原稿)	原稿を読み合い意見交換しながら、自分の考えを深めることができる。 (ニュース原稿・発表)	賢治の優れや表現を取り上げ原稿に記述している。(ニュース原稿)
5	5 番組進行表やニュース原稿に沿って、友達と交流しながらながらニュース番組の発表練習をする。  6	積極的に友達と交流して意見交換しながらニュース原稿の内容を深めようとしている。 (原稿への書き込み・観察)	聞き手を意識しながら分かりやすく話している。 (練習観察) 友達の発表の意図をとらえながら聞き、考えをまとめている。(ノート)			
	7 「特集ニュース！私が出会った宮沢賢治」公開放送を行い、互いに感想を伝え合う。  ⑧	練習の成果を發揮して、楽しく番組を公開している。 (発表)	聞き手を意識しながら、役割に応じた分かりやすい話し方で発表している。 (発表)			
	9 ニュース番組作りのまとめをする。	他のグループの放送を積極的に聞き、自分の考えを進んでまとめている。 (行動観察・ノート)			ニュースを視聴し合いかながら自分の考えを深めることができる。(発表・ノート)	

## 5 本時の学習

### (1) 目標

- 友達が発信した賢治に対する考え方を受信し、自分の読み取りとの相違を比べてまとめたことを、自分にあった方法で発信し、自分の考えを深めることができる。

### (2) 準備物・資料

- ビデオ（ニュース番組を録音したもの）・プロジェクター・スクリーン・視聴者ご意見カード・CD・各役割のネームプレート・マイク

### (3) 展開

時間	学習活動	指導・支援上の留意点
5	1 本時の学習課題をつかむ。 検証番組「宮沢賢治ニュース」～あなたはどう考えますか？～で賢治への考えを深め合おう。	☆研究テーマ関連 ◎評価 • グループ毎に作った「宮沢賢治ニュース」を「検証する」という視点で番組を開催する設定にし、教室を公開番組風にする。メインキャスターを指導者とし、個々の希望と実態から考えた役割で番組に参加できるよう役割を自分で選択させる。 • 発表が得意な児童・・・パネリスト (音声による発信)
15	2 1つのグループのニュース番組を見て、自分の考えと比べ、まとめること。 ○○といっていたが、自分と同じ考え方だと思った。 ○○という考えは思いつかなかった。なるほどなと思った。 ○○という考えに感動した。 ○○といっていたが自分とは違ってぼくは△△だと思う。 ○○のところがよく分からなかつたので作った人に聞きたい。 <役割別発表の仕方> 【パネリスト】自分の意見を発表する。 【FAX投稿者】ご意見カードをFAXで送信する。(ふり) 【アシスタント】届いたファックスを読み上げ、自分の考えも加えて発表する。 【会場視聴者】聞き名人のポイントで聞き、周りの視聴者と話し合いながら聞く。 ===== CM中 =====	• 発表がやや得意な児童・・・アシスタント (友達の書いたカードを音声で発信) • 書くことが得意な児童・・・FAX投稿者 (文字での発信) • 聞くことが得意な児童・・・会場視聴者 (表情・態度での発信)  • 前時に見合った各グループの番組から反響の大きかった(ご意見カードへの書き込みが多かった)グループの番組を取り上げて視聴する。
10	3 ニュース番組を視聴して考えた賢治に対する考え方を、自分の作ったニュース番組と照らし合わせ、自分たちのグループのミニ「番組CM」を作る。 Aグループはこう語っていましたが僕たちの番組は賢治の世界を～ととらえています。ぜひご覧下さい。 ===== 番組エンディング =====	☆ 制作側の考え方をとらえた上で、自分の考え方と比べて意見をまとめられるよう、「視聴者ご意見カード」に「番組の考え方」「自分の考え方との比較」「思ったこと」と項目立てて整理するようカードを工夫する。 <b>(JUMP D:ま・な・びノートの工夫)</b> • 話し合いが深まるために、メインキャスターがそれぞれの意見の中のキーワードを見逃さないように全体に投げかけ、つなぎの役割を果たす。 • 賢治のふるさと「岩手」を想起させるBGMを流し賢治の世界を盛り上げるようにする。 • 視聴した番組と自分たちが作った番組を照らし合わせることで、もう一度自分たちがまとめたニュースの主題(自分が一番伝えたかったこと)を見直し「CM」という形で表現させたい。 • 学習が具体的にイメージできない児童には指導者が予めCMの例を作りおき、提示する。 • 画用紙やホワイトボードを用意しておき、宣伝のための工夫が思いつけば自由に表現して良いことを伝える。 • 本時で視聴したニュースのグループは、他のクラスへの自分の番組CMを作るよう指示する。 • できあがったCMを見合い、今日視聴したニュースにはなかった賢治に対する新たな考え方や自分たちの生き方に対する考え方を意図的に取り上げ、全体の考え方を深められるように導く。
8	4 番組CMを見合い、賢治に対する考え方を全体で交流し合う。	☆ 「今日学んだこと」として、本時の学習を通して賢治に対する新たな考え方や自分の考えに広がりがもてたことを「昨日までは～という考え方だったが今日の学習で～になった。」というようにノートに書いてしっかりとメタ認知させる。 <b>(JUMP B:振り返りタイムの設定)</b>
5	5 本時の学習を振り返る。 ① 今日の学習で自分が分かったことをノートに書く。 ② 意見を発表する。	◎ 受信した考え方と自分の考え方を比べ、賢治に対する自分の考え方を深めている。 (発表・ノート)
2	6 次時の学習内容を知る。	• 次の時間に、賢治の学習の総まとめをすることを告げ、賢治の世界への関心をつなげたい。

# 自ら考えをもち、伝え合う力を身に付けた児童の育成

## プラン1 JUMP

Improvement plan for Japanese Units in Matsugaoka Primary  
松ヶ丘小国語単元改善プラン

### A 単元構成の工夫

- ◎習得から活用までを見通した単元づくりをしています。これは、OECD提示のキー・コンピテンシーの育成プロセス「受信－解釈－発信」を基にしています。この工夫によって、多様な学習活動を可能にし、自己決定の場や交流の場を設定し、楽しく分かる授業に取り組んでいます。

### B 「振り返りタイム」とメタ認知

- ◎何を分かったのかが分からない、という活動偏重の授業にならないように、必ず「振り返りタイム」を設け、習得の確認（メタ認知）ができる授業の確立を目指しています。

### C 様式読みと機能読み

- ◎習得的な読みを「様式読み」、活用的な読みを「機能読み」と区別し、従来の「読み取り」に加えて、自分の発信方法に結びつけるためのいわば新しい「読み取り」を効果的に取り入れ、活用力をのばす授業の実現に取り組んでいます。

### D 「ま・な・びノート」

- ◎「ま・な・びノート」とは、マイセルフ（自力解決、独自性が分かる）、なまえ（名前など交流しあった跡が残る）がびっしり記録・保存されているノートのことです、わたしたちはこのノートの充実を目指しています。  
自力（グループ）解決は自己決定の発露であり、交流活動は関係性の自覚です。これらは学習意欲を高めます。ま・な・びノートは、これらの目に見えにくい特性を可視化させ、メタ認知に役立つと考えます。

### E 書きたい意欲を高める指導過程

- ◎「読むこと」に密接に関連する「書くこと」の指導にあたっては、プランAと関連させて、習得としての「読むこと」から、活用としての「書くこと」につながる単元構成も視野に入れ、書きたいという意欲を高める授業に取り組んでいます。「相手意識」や「目的意識」を特に重視します。

## プラン2 LAMP

Improvement plan for subjects Linguistic Activities in Matsugaoka Primary  
松ヶ丘小各教科言語活動改善プラン

### A 交流の場とメタ言語能力

- ◎国語以外の教科での多様な学習活動において、自分がどのような見方をしているのかを自覚できる「メタ言語能力」の育成を図っています。こうして交流の場を設けることで、充実した言語活動を展開し、思考力、判断力、表現力を育てる授業の実現に取り組んでいます。

### ☆ 用語等解説

- ★メタ言語能力・・・児童が漠然と使っている言語について、言葉のもつ内容や性質といった面から捉え直しする力。例えばツルレイシの観察でも、「色」「形」「手触り」などのどの面から見ていたのかを捉え直す力。  
★各教科での交流・・・「生活科」では、発見したことを友達と比べる、「理科」では、予想や仮説、結果などを比較する、など（新指導要領）。